

氏 名 伊 豆 藏 好 美

所 属 ・ 職 名 社会科教育講座 (哲学 ・ 倫理学) ・ 助教授

研究室電話番号 0 7 4 2 - 2 7 - 9 1 7 5
(ダイヤルイン・FAX 兼用)

電子メールアドレス izukura@nara-edu.ac.jp

最終学歴及び学位 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学 (1988)
文学修士 (東京大学 1985)

所 属 学 会 等 哲学会, 日本哲学会, 日本倫理学会

専 門 分 野 西洋近代 (特に 17 世紀ヨーロッパ) の哲学および倫理学



研究と教育について

主として 17 世紀ヨーロッパの哲学者たちについての思想史的研究を行ってきました。現在は特にホッブズを研究対象としています。ヨーロッパの 17 世紀は戦争と革命の世紀でした。古い秩序を支えてきた思想や権威が費え去り, 伝統的道德規範が無力化する中で, 懐疑論や相対主義を克服し, 熾烈な政治的, 宗教的対立を調停し得る新たな世界観や倫理を創設することが, 当時の哲学者たちに課せられた課題でした。そこから生み出された近代の自然科学と, 権利概念を基礎とする倫理・政治思想は, 今日のわれわれの社会を支える自明の前提となっています。つまり, 彼らの哲学を再検討することは, 実は, 現代社会が抱えるさまざまな問題を, その思想的な起源に遡って吟味し直すことでもあるのです。

哲学・倫理学に限らずどんな学問研究においても, 最も重要なことは, 自分なりの「問い」を見いだし, その「問い」にどうやって自分なりの答えを出そうとするか, ではないでしょうか。そして, ある特定の学問に関わることにしても「教育」的な意味があるとすれば, それはとりわけ自らがその「問い」を問うプロセスの中にこそあるように思われます。当たり前の「常識」や「当然」にどのような疑問符が付けられ, 異なる思考の可能性がどうやって見いだせるかをともに検討しながら, 別の仕方でものごとを考え直すことの楽しさを (苦しさも ?) 共有できれば, と考えています。

主な研究業績

- ・「ライブニッツと「心身問題」」(1987 年) 日本哲学会編『哲学』第 37 号 法政大学出版局
- ・「マテシスの理念と空間の形而上学 - 「普遍数学」構想を介して対峙するライブニッツとデカルト - 」(1988 年) 『現代思想』第 16 巻第 12 号 青土社
- ・「ホッブズにおける宗教の問題」(1997 年) 『奈良教育大学紀要』第 46 巻第 1 号
- ・「永遠真理の記憶と想起 - ホッブズ vs. デカルト」(2003 年) 哲学会編『記憶』(『哲学雑誌』第 118 巻第 790 号) 有斐閣
- ・「承認への欲望と死の恐怖 - レオ・シュトラウスのホッブズ「自然状態」論解釈をめぐって - 」(2005 年) 『同志社大学ヒューマン・セキュリティ研究センター年報』第 2 号 萌書房

主な授業担当科目

倫理学概論 (専門科目) , 倫理学 (専門科目) , 哲学・倫理学演習 (専門科目) , 道德教育の研究 (教職科目) , 倫理学・社会思想研究 (大学院)

学 会 活 動

社 会 的 活 動

講 演 の テ ー マ